# 共有）11/9木　第4回　AGUコーチズセッション　結果　（ラクロス部OB会長　温湯）

幹事会　各位

取り急ぎ、昨日、青山キャンパス17号館6Fで開催された
AGU社会情報学部　原晋特別研究員（50歳　陸上部駅伝監督）の講演結果を共有いたします。

参加者は約100名程度だったでしょうか。
原先生が普段考えていることが良く分かり、あっという間の80分でした。

【講演内容】

大学スポーツ振興は公共的役割を担う可能性が高いため、スポーツの社会的効用を
学問として捉える動きを加速させたい。20年東京五輪のレガシーの一つに“大学スポーツマネジメントの枠組みを変えた”と言えると良い。

そのために、青山学院大学の体育会に期待したいことをAGUを愛する一人として自分の経験を基にお伝えしたい。
講演内容が答えではない、あくまで提案であり青学体育会の将来を考えるきっかけになればという思いを強調しておきたい

大学スポーツ振興の方針とは下記の通り　＊スポーツ庁で議論している内容
　人材教育　　－　コミュニケーション能力　計画力　問題解決力　実効力（実行力）
　大学ブランド向上　－　競争に勝つ姿を通し広くファン作り　→　AGU卒業生35万人では少ない
　コミュニティ形成　　－　地域住民との共存　施設開放　市民大学など

青山学院に対しては
大学経営トップ層の理解醸成・専門組織化・資金調達力向上・スポーツ教育充実に期待

AGU体育会が取り組むべき課題を、指定強化部6部と一般体育会約45部に区別し説明。

指定強化部6部（野球・ラグビー・駅伝・・・）は、
大学の広報的役割、勝つこと、大学教育学問とのマッチングが須で、最後にOB会との交流が大事。
スタッフの処遇改善、スポーツ支援課業務の改革、体育会本部年度予算見直し等の取り組み、チームカラーばらばらの見直し等が必要。

勝利　→　普及　→　資金強化の好循環を実現させるためには、部の理念を忘れてはいけないことに言及。
駅伝チームの例では、「感動は人からもらわず、人に与える側になれ」といった、
ぶれない行動指針を理念として共有している。

原監督は10年長期育成計画を説明し、当時の半田学長の理解の下、’04年に’AGU駅伝監督に就任。

ステージ1（上意下達型）－４（支援型運営）に分けて中長期に渡り、強いチームを作りあげた手法を紹介。

成績・順位上昇は就任6年目からだったが、
1-5年間で「規則正しい生活」を定着させたステージ１－２の上に強いチームが成り立っていることを強調。

**「規則正しい生活」**という規律定着の有無が見極めポイントだったと解説。

駅伝チームは、朝の一言スピーチ、表現力を豊かに言葉を大切にする、ビジョンを語る、テーマを自ら考える、経費を考える、
4ヶ月・1ヶ月先の練習日程に細かく分解、目標と結果シートをと通して、現状を認知させ自分を振り返らせる仕組みを繰り返す。

**一般体育会各部（約45部　含むラクロス部）は、　OB会との交流・論理的思考の訓練が必須で、
指定強化部とは異なり、広報的役割、勝つこと等の優先順位は低い**

AGU体育会で育成していきたい人材像は、AIで奪われる仕事を見せた後、
モノコトをつくる（作り・創り）、考える、分析能力をもち人と接するサービスを考え抜く、人としっかりとコミュニケーションできる人物。

**（OB達はどのようにチーム作りに参加するのか、の問いに）
駅伝チームのOBには後悔しない人生を歩んでほしい。そして、企業で出世してほしい。
ルールを作る側に回って、日本を良くしてほしい、と高い視点で回答。**

＜所感＞
近視眼的な運動能力アップといったパフォーマンス向上だけではなく、　原先生が強調された目標達成（ビジョン）のため自ら課題解決していく力　を重視した人材育成の方向性は、AGULAX OB会でも参考にしたいポイント。